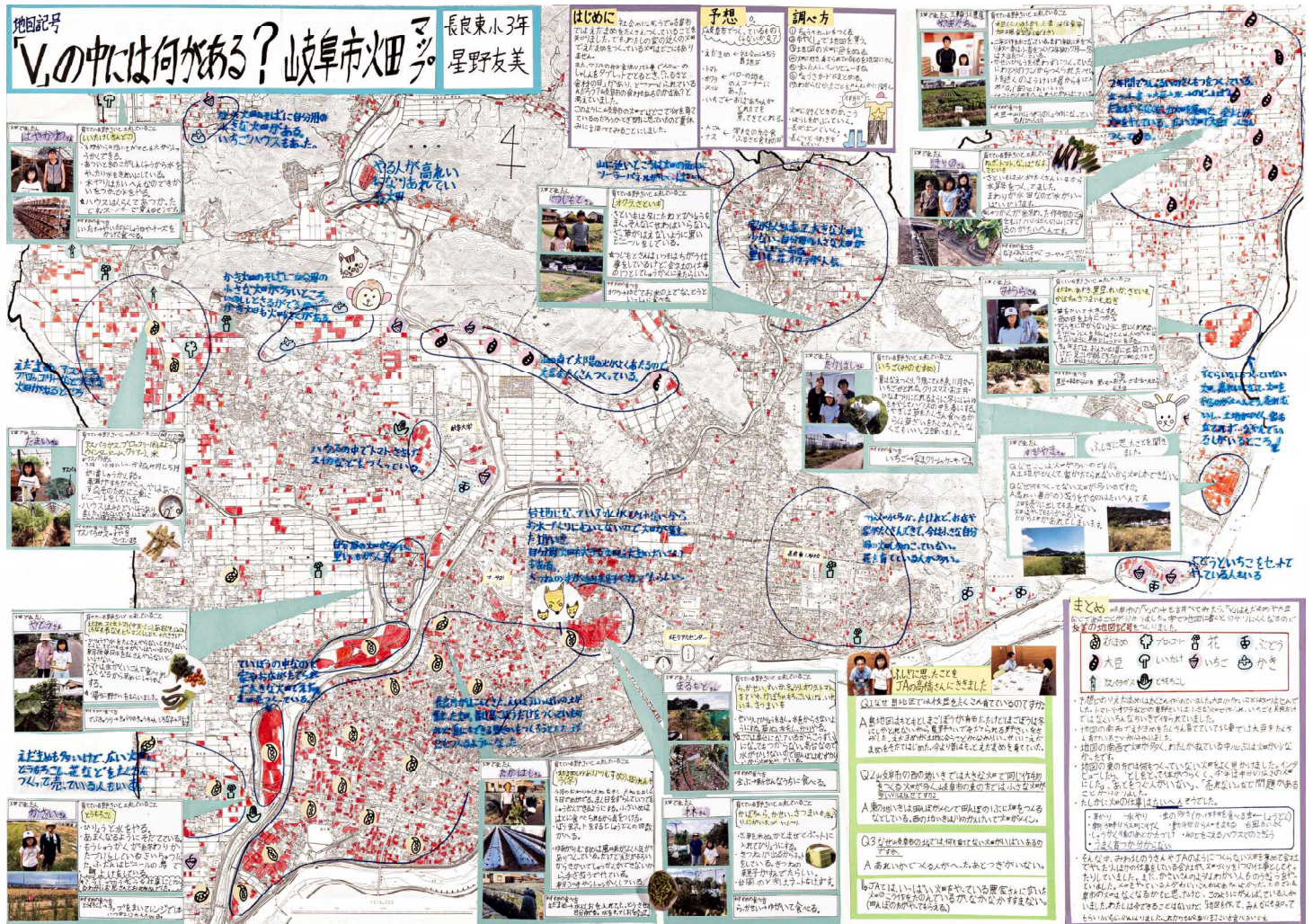


文部科学大臣賞

「地図記号「V」の中には何がある？岐阜市畑マップ」

岐阜県岐阜市立長良東小学校

3年 星野 友美（ほしの ゆみ）



作品主旨文

社会のじゅぎょうで、岐阜市ではえだまめを多くつくっていることを知りました。でも、近所の畑でえだまめを見ません。なのでどこの畑で何がつくられているか調べることにしました。畑でつくられているものや、畑の多い所、少ない所、畑仕事のたいへんさなどが分かりました。やる人のいない畑がふえていることや、この問題についてがんばる人がいることに気づきました。

講評

畑という地図記号の中に様々な作物が含まれているというところに自ら疑問を持ち着眼した点がまず評価できます。作品を作成するにあたって、農家に対し作物の栽培状況や農家の現状、料理方法など様々な観点から聞き取り調査をしているところが評価できます。また、地図の色使いも丁寧に行われており、地図表現が煩雑にならないような工夫もされています。小学3年生の社会科では身の回りの地図を見て、地域を歩いて勉強しますが、そのお手本となるような作品です。

審査員特別賞

「樹木の葉っぱでくらべる夏のかお冬のかお ～都立善福寺公園～」

東京都武蔵野市成蹊小学校

5年 小林 凌大 (こばやし りょうた)

樹木の葉っぱでくらべる 夏のかお 冬のかお



作品主旨文

公園の冬と夏の様子があまりにもちがっていて同じ場所とは思えなかったので、地図で表す方法はないかと考えた。冬になると樹木の葉っぱは落ちるものだと思っていたが、意外とそうでないことがわかった。

講評

環境について自分なりに調査したことをうまく地図に表現した作品です。作品からは空間的な広がりに加えて、夏と冬という季節の時間軸を感じられます。文字と地図の配置や、色使いからグラフィックデザインとして優れています。また、シンプルな凡例を示す工夫など伝えたいことがわかりやすくなっています。

審査員特別賞

「生まれた年と今で、少子化がどのように進んだか～徳島県の
中学校生徒数の比較から～」

徳島県徳島市鳴門教育大学附属中学校

1年 大田 彩生（おおた さき）

生まれた年と今で、少子化がどのように進んだか
～徳島県の中学校生徒数の比較から～

鳴門教育大学附属中学校 1年 大田彩生

①動機

日本は少子高齢化社会を迎え、子どもの数がどんどん減っていると言われています。

そこで、現在中学一年生の私たちが生まれた年(2010年)からこれまで、

徳島県で実際にどのくらい少子化が進んだのか、中学校の生徒数をもとに調べてみたいと思う。

生徒数 増減率 約22年度 との比較	学校名	生徒数 (44年度)	減増率
114.4%	鳴門第一中学校	187	増
113.2%	鳴門第二中学校	491	増
108.9%	徳島第一中学校	312	増
105.1%	徳島第二中学校	328	増
102.1%	徳島第三中学校	332	増
97.2%	徳島第四中学校	312	増
95.2%	徳島第五中学校	307	増
84.2%	徳島第六中学校	278	増
81.4%	徳島第七中学校	271	増
80.6%	徳島第八中学校	454	増
80.1%	徳島第九中学校	352	増
79.1%	徳島第十中学校	352	増
76.1%	徳島第十一中学校	352	増
75.1%	徳島第十二中学校	352	増
74.1%	徳島第十三中学校	352	増
73.1%	徳島第十四中学校	352	増
72.1%	徳島第十五中学校	352	増
71.1%	徳島第十六中学校	352	増
70.1%	徳島第十七中学校	352	増
69.1%	徳島第十八中学校	352	増
68.1%	徳島第十九中学校	352	増
67.1%	徳島第二十中学校	352	増
66.1%	徳島第二十一中学校	352	増
65.1%	徳島第二十二中学校	352	増
64.1%	徳島第二十三中学校	352	増
63.1%	徳島第二十四中学校	352	増
62.1%	徳島第二十五中学校	352	増
61.1%	徳島第二十六中学校	352	増
60.1%	徳島第二十七中学校	352	増
59.1%	徳島第二十八中学校	352	増
58.1%	徳島第二十九中学校	352	増
57.1%	徳島第三十中学校	352	増
56.1%	徳島第三十一中学校	352	増
55.1%	徳島第三十二中学校	352	増
54.1%	徳島第三十三中学校	352	増
53.1%	徳島第三十四中学校	352	増
52.1%	徳島第三十五中学校	352	増
51.1%	徳島第三十六中学校	352	増
50.1%	徳島第三十七中学校	352	増
49.1%	徳島第三十八中学校	352	増
48.1%	徳島第三十九中学校	352	増
47.1%	徳島第四十中学校	352	増
46.1%	徳島第四十一中学校	352	増
45.1%	徳島第四十二中学校	352	増
44.1%	徳島第四十三中学校	352	増
43.1%	徳島第四十四中学校	352	増
42.1%	徳島第四十五中学校	352	増
41.1%	徳島第四十六中学校	352	増
40.1%	徳島第四十七中学校	352	増
39.1%	徳島第四十八中学校	352	増
38.1%	徳島第四十九中学校	352	増
37.1%	徳島第五十中学校	352	増
36.1%	徳島第五十一中学校	352	増
35.1%	徳島第五十二中学校	352	増
34.1%	徳島第五十三中学校	352	増
33.1%	徳島第五十四中学校	352	増
32.1%	徳島第五十五中学校	352	増
31.1%	徳島第五十六中学校	352	増
30.1%	徳島第五十七中学校	352	増
29.1%	徳島第五十八中学校	352	増
28.1%	徳島第五十九中学校	352	増
27.1%	徳島第六十中学校	352	増
26.1%	徳島第六十一中学校	352	増
25.1%	徳島第六十二中学校	352	増
24.1%	徳島第六十三中学校	352	増
23.1%	徳島第六十四中学校	352	増
22.1%	徳島第六十五中学校	352	増
21.1%	徳島第六十六中学校	352	増
20.1%	徳島第六十七中学校	352	増
19.1%	徳島第六十八中学校	352	増
18.1%	徳島第六十九中学校	352	増
17.1%	徳島第七十中学校	352	増
16.1%	徳島第七十一中学校	352	増
15.1%	徳島第七十二中学校	352	増
14.1%	徳島第七十三中学校	352	増
13.1%	徳島第七十四中学校	352	増
12.1%	徳島第七十五中学校	352	増
11.1%	徳島第七十六中学校	352	増
10.1%	徳島第七十七中学校	352	増
9.1%	徳島第七十八中学校	352	増
8.1%	徳島第七十九中学校	352	増
7.1%	徳島第八十中学校	352	増
6.1%	徳島第八十一中学校	352	増
5.1%	徳島第八十二中学校	352	増
4.1%	徳島第八十三中学校	352	増
3.1%	徳島第八十四中学校	352	増
2.1%	徳島第八十五中学校	352	増
1.1%	徳島第八十六中学校	352	増
0.1%	徳島第八十七中学校	352	増
-0.1%	徳島第八十八中学校	352	増
-1.1%	徳島第八十九中学校	352	増
-2.1%	徳島第九十中学校	352	増
-3.1%	徳島第九十一中学校	352	増
-4.1%	徳島第九十二中学校	352	増
-5.1%	徳島第九十三中学校	352	増
-6.1%	徳島第九十四中学校	352	増
-7.1%	徳島第九十五中学校	352	増
-8.1%	徳島第九十六中学校	352	増
-9.1%	徳島第九十七中学校	352	増
-10.1%	徳島第九十八中学校	352	増
-11.1%	徳島第九十九中学校	352	増
-12.1%	徳島第一百中学校	352	増

②調査方法

徳島県の教育統計情報から平成 22 年度と令和 4 年度の徳島県内の中学校の生徒数を比較する。

(<https://www.pref.tokushima.lg.jp/open-nakata/hyokuh/gakuhkyoku/2033370/>)

※地域特性を見るための国立、県立、私立中学校は除く

※統合校は統合前の 2 校合計と統合後の校数を比較する

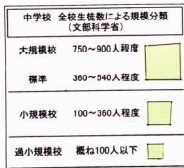
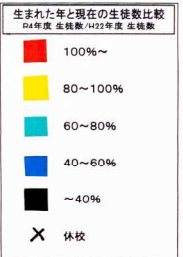
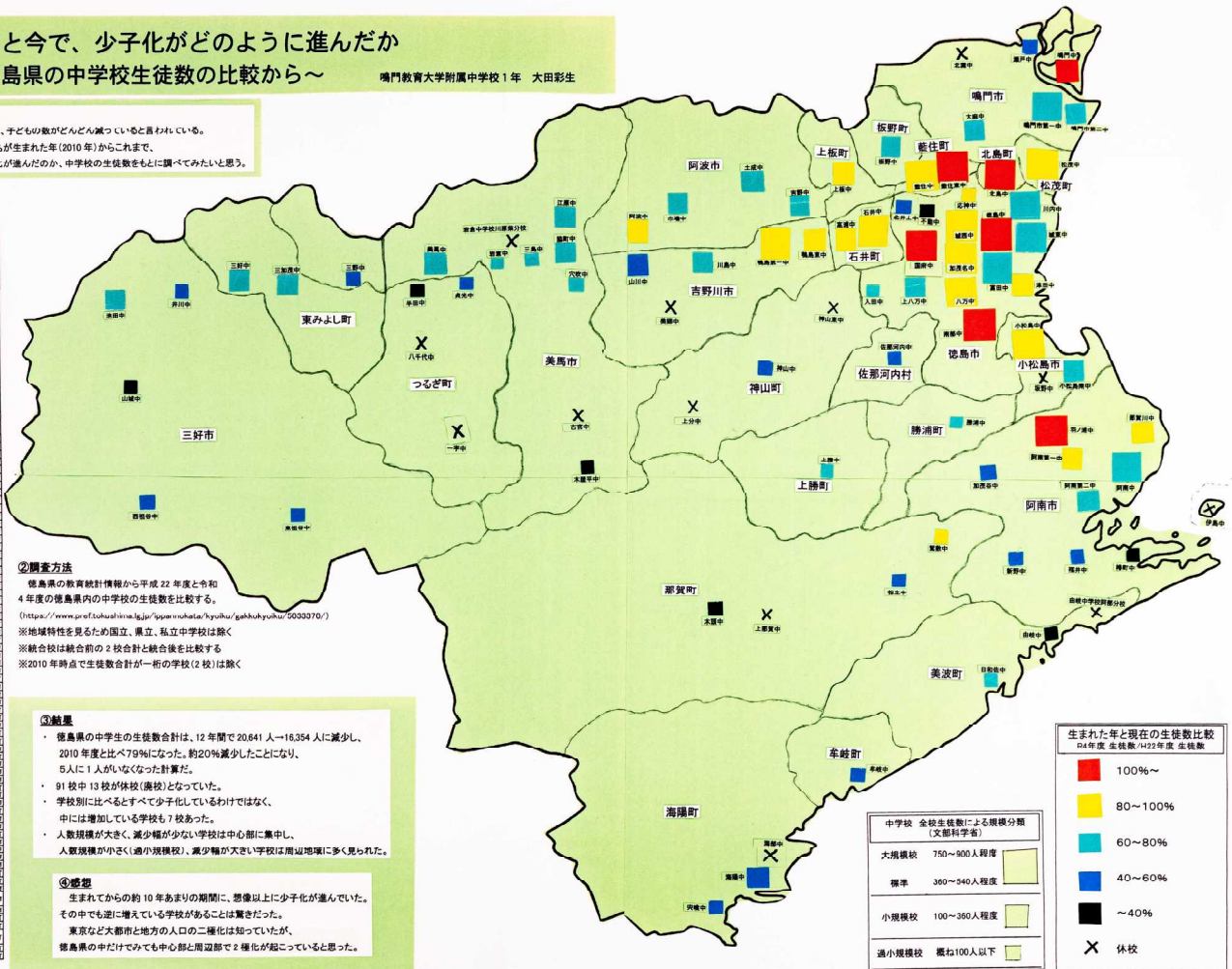
※2010 年時点での生徒数合計が一桁の学校(2 校)は除く

③結果

- 徳島県の中学生の生徒数合計は、12 年間で 20,641 人→16,354 人に減少し、2010 年度と比べ 79% になった。約 20% 減少したことになり、5 人に 1 人がなくなった計算だ。
- 91 校中 18 校が休校(廃校)となっていた。
- 学校別に比べるとすべて少子化しているわけではなく、中には増加している学校も 7 校あった。
- 人数規模が大きく、減少幅が少ない学校は中心部に集中し、人数規模が小さく(過小規模校)、減少幅が大きい学校は周辺地域に多く見られた。

④感想

生まれてからの約 10 年あまりの期間に、想像以上に少子化が進んでいた。その中でも逆に増えている学校があることは驚きだった。東京など大都市と地方の人口の二極化は知っていたが、徳島県の中だけでみても中心部と周辺部で 2 極化が起きていると思った。



作品主旨文

少子化が進んでいると言われますが、私自身日常で実感したことはありません。そこで、私が生まれてから現在まで、どのくらい子供が減っているのか、徳島県の中学校の生徒数をもとに調べました。

その結果、この12年間で想像以上に生徒数が減少していましたが、中には増加している学校がある事に気づきました。そして各学校の増減率を色、大きさ、分布で地図上に表すと、著しく減少する周辺部と中心部の二極化が見えてきました。

講評

学校の規模と生徒数の増減が一目でわかる地図であり、徳島県の様子が地域によってどのような傾向にあるかもわかりやすいです。また、一つの凡例で2つの事象を盛り込んでいる記号で表すなどの工夫がされています。地図表現としては山地や平地などの地勢がわかるような工夫をするとよいと思います。